

プロジェクトタイトル: 小樽から世界へ: 国際法模擬裁判JAPAN CUPへの挑戦

プロジェクト代表者: 張 博一

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトの最大の目的は、本学の学生が国際問題に関心を持ち、その視野・見識を広げることである。前期では、国際法模擬裁判JAPAN CUPへの参加を中心に活動を行った。模擬裁判では、綿密な文献調査を踏まえた法的議論を準備し、大学教授・外交官・弁護士の前で口頭弁論を行い、質問に应答する法的技術を鍛えた。また、東京大学、京都大学、大阪大学、早稲田大学などと競争し、その中で優秀な成績を収めたことは学生の自信につながった。

後期では、前期で培った経験や能力を活かすことを目標に、学内ゼミ対抗ディベート、インナーゼミナールへの参加、愛知県立大学学生との交流、外務省外交講座の開催など、幅広い活動を実施した。

2. 具体的な取組内容

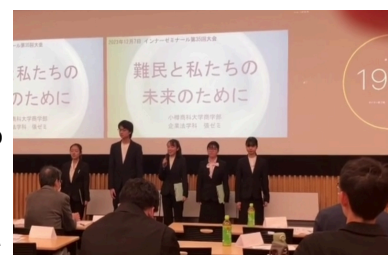
4月～7月 国際法模擬裁判への準備、参加

7月1日、2日に東京で開催された国際法模擬裁判大会JAPANCUPに参加し、昨年の成績(原告書面2位)を上回る原告書面1位という好成績を収めた。しかし、口頭弁論では裁判官との質疑応答にうまく対応することができず、口頭弁論者上位10名に選ばれず、総合順位に入ることができなかったため、今後の課題としたい。



12月 インナーゼミナールで優勝

「難民と私たちの未来のために」で研究発表を行い、初出場にして優勝することができた。4月～7月に取り組んだ模擬裁判大会で培った経験が、研究の進め方、プレゼン原稿の作成手法、相手に伝えるための話法などを活かし、そして何より学生たちの自信が結果につながった。



1月 愛知県立大学合同ゼミ、外務省外交講座

勝ち負けを決める裁判ではなく、関係国の共通利益を実現するためにはどのように他国と交渉すべきかを理解するために「ALPS処理水の海洋放出と日本水産物輸入禁止措置」をテーマに、日中模擬交渉を行った。それを踏まえて、外務省外交講座で外交官の方に、実際の交渉の方法や心構えについて話を伺い、知識の再確認と外交実務について学ぶことができた。



3. プロジェクトの成果及び地域への還元

申請時に計画した以上の活動(合同ゼミ、外交講座)を行ったこと、学生がこれらの活動の中で期待以上の成績(原告1位、インナーゼミナール優勝)を収めたことができた。採択時、「多くの学生が利益を得られる活動にするように」との助言を受け、外交講座を全学学生対象とした。本プロジェクトは、本学が目指す人材育成方針と合致しており、グローバル教育、アクティブラーニングを北海道地域の教育現場に広げることが期待される。

